

圃場の融雪促進等の技術対策

令和7年2月28日
山形県農林水産部
農業技術環境課

今冬は、12月中旬以降に断続的な大雪が続きました。また、2月28日時点の県内8地点の積雪深は、平年より多い地点が多いことから、融雪遅延が懸念されます（表1）。

このことから、圃場等の融雪促進について、以下の項目を参考に対策を徹底してください。

表1 積雪の状況（気象庁）

日最深積雪（cm）	山形	左沢	尾花沢	新庄	米沢	長井	櫛引	酒田
2月27日	19	60	159	101	117	108	14	-
平年	17	42	107	88	61	66	33	4
平年差	+2	+18	+52	+13	+56	+42	-19	-4

1 作業の安全確保

- （1）作業の際は、雪で見えない水路等、作業する足下に危険はないか、落雪の恐れはないか等、安全を十分に確認してから行う。
- （2）園地の確認や除雪作業等は、万一の事故に備え、複数名で行う。
- （3）除雪機の誤った操作は人命に直結する事故を招くので、除雪機を使用する場合は、周囲の安全や機械操作に十分注意する等、農作業事故防止対策を徹底する。特に、雪が機会に詰まった場合は、必ずエンジンを止めてロータリーが完全に停止してから、道具を使って雪を取り除く。

2 作業道の確保

- （1）果樹・施設園芸団地等へ接続する農道は、近隣の生産者がお互いに協力して除雪し、作業道の確保に努める。
- （2）生産組織等は市町村、JA等と連携し、農道除雪を行い、作業道を確保する。

3 融雪促進技術

（1）融雪剤の散布

ア 融雪剤は、農作物の管理作業、作付け予定時期を考慮して散布する（表2）。融雪剤は、積雪のピークを過ぎてから、早めに散布すると効果が高く、1回散布より2回散布で消雪が早まる（図1）。なお、散布後に雪が降ってもある程度効果は持続されるが、10～20cmの積雪があり、融雪剤が見えなくなったら再散布する。

イ 稲作では、春作業の遅れが懸念される水田において、融雪剤や融雪促進効果のある堆肥、資材等の散布や機械による除雪を行う。特に、中山間地域の育苗予定地において、育苗作業時期まで融雪が見込めない場合は、積極的な除雪を行う。

ウ 果樹園では、休眠期防除等の春作業に支障がないよう、3月中旬頃までの

消雪を目指す。2月下旬の段階で積雪が概ね80cm以上、3月上旬の段階で概ね60cm以上の積雪の場合は、速やかに融雪剤の散布を行う。なお、散布後に雪が降っても、ある程度効果は持続されるが、10～20cmの積雪があり、融雪剤が見えなくなったら再散布する。

エ 野菜・花きでは、すいか、ねぎ等の春の定植準備や、アスパラガス、にら、りんどう等の萌芽が遅れて計画出荷等に支障がないよう、4月10日までの消雪を目指す。2月下旬の段階で積雪が概ね160cm以上、3月上旬の段階で積雪が概ね130cm以上の場合は、速やかに融雪剤の散布を行う。

表2 主な融雪剤、肥料等と使用量の目安

融雪剤等	10a当り散布量	備 考
てんろ石灰	40～60 kg	・てんろ石灰は消雪効果が高い ・散布後、10～20cm程度の積雪があり融雪剤が見えなくなったら、再散布する。
ようりん又はBMようりん	40～60 kg	
アヅミン	20～40 kg	
畑土（火山灰土等）	40～50 kg	

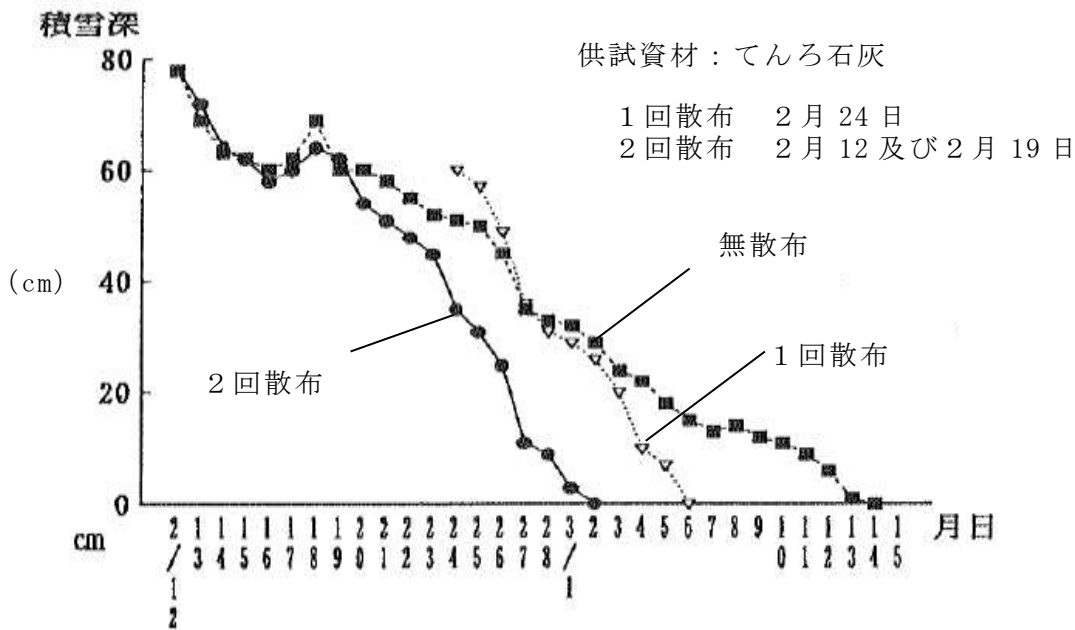


図1 融雪剤の散布時期・散布回数が融雪に及ぼす影響
【農業研究研修センター中山間地農業研究部 (平成10年)】

(2) 除雪と雪割作業

道路などの除雪作業により雪が堆積していたり、雪が固まったりしている場所では除雪機や重機による除雪と雪割を積極的に行う。雪割を行うと、空気に触れる雪の表面積が増加し、融雪が進みやすくなる。なお、雪割後に融雪剤の散布を行えば、融雪促進に更に効果的である。